

当時の様子を語る

早めに避難してよかった



にしたち あきら よしひろ
西立明さん 芳弘さん
(川面町)

7月6日、裏山から家の下へ流れてくる水の量が増えて排水がでなくなり、危険を感じて集会所へ避難しました。避難したのは午後11時ごろだったと思います。8日までの2日間を避難所で過ごしましたが、その間は町内会の皆さんに助けていただきました。

家に戻ると土砂が家を押しつぶして、先に進んでいきたいと思います。避難してよかったとつくづく思いました。家をつぶしている土を早く取り除いて、先に進んでいきたいと思います。



家に流れ込んだ土砂

もう一度前を向きたい



あおの えつお
青野悦夫さん
(中井町西方)

7月6日は雨が激しかったので、慌てて職場から家に戻りました。午後5時ごろに裏山の土砂が家を押し、部屋の床が盛り上がったので、身の危険を感じ避難しました。

7日の午後家に戻ると、せり上がった土が家を押し上げていて驚きました。以前から土砂に恐怖を感じていましたが、まさかこのような状態になるとは思いませんでした。

今後は長屋を改修して住めるようにし、小さな家でいいので建て直して、もう一度前を向いて頑張ろうと思います。



長屋を住めるように整理

1時間も経たずに水に浸かる



くいだ よしのぶ
粒田良信さん
(備中町東油野)

ダムの放流後、水門から川の水が逆流し、1時間も経たないうちに家の前の通りが水に浸かってきたので、旧備中中学校へ避難しました。

近所で2人が家に残り残されましたが、消防団がボートで助け出してくれました。町内会は14、15人いますが、動ける男性が4人しかいないため、このような非常時の避難はとても厳しいと思います。

昭和47年の水害と比べると、浸水自体は1.5メートルほど低く、当時無かった道路が堤防となっているため、水の勢いは弱かったと思います。



当時の様子を語る粒田さん

早く普通の生活を取り戻したい



うえた ひろし
上田宏さん
(玉川町玉)

7月5日の夜、6日の朝の時点ではまだ大丈夫だと思っていました。

6日の夕方、落合町近隣の職場へ戻ったときに川を見ると、急激に水量が増えていたので妻子を文化交流館へ避難させました。いま考えると賢明な判断だったと思います。職場も大変な状況で、6日と7日は家に帰ることができませんでした。8日の朝に家に戻ると、1階天井付近までの浸水の跡に驚きました。

暑さと断水が続く中、ボランティアの方たちに片付けを手伝っていただきとても助かりましたし、避難所でも多くの方に助けられました。頑張っって早く普通の生活を取り戻したいです。

多くの皆さんに助けられた



たにもと ひでひこ まゆみ
谷本秀彦さん 真由美さん
(落合町近似)

家のすぐ裏が高梁川なので、水位などを注意して見るようになっていました。

水量が急激に増えたのは7月6日の午後8時過ぎだったと思います。川の水が堤防の上まであと1メートルとなり危ないと思いましたが、その後すぐに足元まで水がきて、あつという間に腰のあたりまで浸かりました。結局自分たちで避難することができず、レスキューに助けられて避難所へ向かいました。

8日の朝から親戚や友人、それに吉備国際大学などのボランティアの皆さんが家の片付けや泥出しを手伝ってくれたので、とても助かりました。

訓練を生かすことができた



よしだ えいじ
吉田英司さん
(中井分団第2部部长)

7月6日の夕方から、分団長の指示で班長以上が集まり土のうを作りました。作った土のうは、家に土砂が入りそうな場所へ持って行き、設置をしました。

雨が強くなり、避難勧告・避難指示が発令された時は中井町全域を巡回し、住民の方へ避難を促しました。多いところで3周は回ったと思います。避難所までの移動が困難な方は、団員の車で避難の補助を行いました。6日の夜から器庫で待機した後、7日の朝からは道路や家屋近くにたまった土砂の撤去を行い、夕方に解散となりました。

今回の災害対応で意識したこと、は、団員の安全を確保しながら、住民の皆さんに早く避難してもらうことでした。災害発生時の2週

ここまでの災害は初めて



おりい よしみつ
折井美光さん
(備中分団湯野2部部长)

間前に市内全域で行われた大規模水害対策訓練に参加していたので、訓練を思い出して行動することができました。これからも消防団として、地元住民として、皆さんに安心して住んでもらえるようにサポートし、災害時には先頭に立って行動していきたいと思っています。

7月6日は午後5時に家に戻りましたが、この時川の水位が上昇していたので、団員を招集し器庫に待機するよう指示しました。その後、住民の皆さんが避難を始めたので、旧備中中学校へ消防団の本部を置き、避難所への誘導と安否確認などを行いました。安否確認を行う中で、2人が家



片付けを手伝う消防団の皆さん

に取り残されていましたが、道路の寸断により救急隊員が来られず、個人所有のボートで団員が向かい、無事に救助しました。6日の夜は旧備中中学校へ待機し、7日の朝からは道路にたまった泥を洗い流したり、浸水した家の片付けを手伝ったりしました。また、15日には分団長の指示で災害ごみを旧成羽高校グラウンドへ搬出し、消防団としての活動は終了しました。団員として約25年活動してきた中で、このような大規模な災害は初めてでしたが、訓練などの成果もあり素早い対応ができたと思います。これからも災害や地域の困り事などに、消防団として、地元の住民として対応していきたいと思っています。

消防団として